



Web Fairy Paradise

第39号

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第36回WFPフェアリー作品展
- ・ 第48回推理将棋出題

結果発表

- ・ 第34回WFPフェアリー作品展 B
- ・ 第35回WFPフェアリー作品展
- ・ Fairy of the Forest #28
- ・ 第47回推理将棋出題

読み物

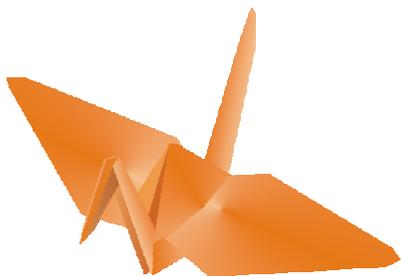
- ・ 創作（推敲）の一端（神無太郎）
- ・ 不動玉協力詰作品（たくぼん）

がんばろう！日本



2011/9

はじめに



今年の雨は半端ないですね。先月の12号でも甚大な被害を各地にもたらしました。現在この原稿を書いている時点でも15号が四国から紀伊半島に向けて進んで来ています。今年に入って降った雨量はかなりの量でしょうし山の地盤も気になります。台風15号での被害が出ないことを祈るばかりです。

8月はフェアリー界は忙しく(どっぷり嵌っている人だけでしょうけど)私も解図、創作とかなりの時間を費やしました。今月の原稿を読んで頂ければ分かりますが、結構時間の無さの結果が顕著に出てしまいました。まあこれは個人的な問題かも知れませんが・・・

というわけで森茂作品集のスケジュール発表は今月ぐらいに発表したいと先月ここに書きましたが、もうしばらくお時間を頂戴致したいと思います。

来年には「この詰 2012」が発売される予定だそうで、フェアリー作品ベストも山田嘉則さんの選考で発表されます。選考される作品は2010～2011年が該当期間ですのでまだ間に合います。持っている秘蔵傑作作品がある方は是非早めにWFPに投稿をお願いします。

おまけ

ひよんなことから今週末から我が家で犬を飼う事になりました。人に言わせるといろいろお金もかかるし世話をする時間も増えるとの事で、お金は仕方ないにしても時間は限りがあるので詰将棋(フェアリー)の時間が割かれるのは困るんだよなああと悩み中。果たしてどうなりますか・・・

【 募 集 】

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第38号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

* ご協力感謝します

妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://www.abz.jp/~k7ro/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

イラスト・素材提供：幻想素材サイトFirst Moon

<http://www.first-moon.com/>

* 表紙のイラストを使用させて頂いております。

第 36 回 WFP 作品展 他

担当：神無七郎

まえがき & 今回の出題について



秋といえば「読書の秋」。ということで、今回は最近読んで面白かった本を紹介します。安福良直著「世界最大の虫食い算」（文春新書）です。

どんな分野でも「マニア」と呼ばれる人はいるもので、この本では「虫食い算」に憑かれた人が、自分の半生と自分が夢中になった世界について語っています。

ふとしたきっかけから虫食い算を解くことに夢中になり、次は作ることに夢中になり、そしてより困難な創作の世界へと足を踏み入れていく……打ち込む世界が違うとはいえ、自分が詰将棋にとり憑かれたのと同じ時期に、決してメジャーと言えない趣味にのめり込んでいった経緯を知ると、この著者に共感を覚えずにはいられません。論理で綺麗に解ける虫食い算から、試行錯誤を重ねないと解けない虫食い算へ歩を進め、不毛とさえ思われたその世界の先にエレガントな発見が待っていた…その体験を語るくんだり（実際にこの著者が進んだのと同じ道を辿って見ないと本当には理解できないでしょうが）情熱に満ち溢れています。

この本で語られる「2万桁の完全虫食い算」は、あるパズル誌に投稿されたのですが、解答者がいる・いない以前に、出題さえされませんでした。この辺りの事情は詰将棋（特にフェアリー）の世界の悩みと共通するものを感じます。凝った作品を作っても解ける人がいないので、作品を観賞するのは作者本人だけ、という事態になり易いのです。そして、それが分かっているでも、誰も入り込もうとしない深奥に踏み込まずにはいられない……そんな作家の「業」を感じさせられました。

さて今回の作品展は全8作。

最初の2題は縫田氏によるちょっと風変わりなツイン。同じ図を異なるルールで解いてください。神無太郎氏の3作は、簡素形の協力詰と、「打歩」条件が付いた協力詰2作ですが、この場合の「打歩」はいわゆる「完全打歩」で、打歩詰以外の詰手は禁手扱いとなります。また、この禁手は先後双方に再帰的に適用され

ることに留意して解いてください。たくぼん氏の2作は「ちょっとだけ謎シリーズ」の第2弾、第3弾です。そして最後は縫田氏による「レトロ」です。「レトロ」は与えられた図から逆算して詰めるもので、さしずめ「ちゃんと指せば詰んだのに、間違えてこんな形になっちゃった」という局面からやり直す感じでしょうか。本作の場合は手数指定が「-2/1手」なので、2手逆算して1手で詰めてください。詰将棋のレトロですから、チェスプロブレムのレトロと違って攻方に王手義務がある前提で逆算してください。解答の書き方は逆算と詰め方が分かれば何でも構いません。

今回の問題は全部合わせても「2万桁の完全虫食い算」より易しいのは确实。気軽に取り組んで、どしどし解答をお寄せください。

解答要項

解答締切：2011年10月15日（土）

宛先：janacek789@ybb.ne.jp

メールの件名に「解答」の語句を入れて下さい。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。（原則として毎月15日の投稿まで当月号に掲載します。）宛先は解答と同じjanacek789@ybb.ne.jpへ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。f m検討済みなら.fmo形式のファイル添付を推奨します。

ルール説明

【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

【対面】

敵駒と向かい合うと互いに利きが入れ替わる。

【マドラシ】

同種の敵駒が互いの利きに入ると、利きがなくなる。ただし、玉は互いの利きに入ることはできない。

【アンチキルケ】

駒取りがあったとき取った方の駒が、最も近い将棋での指し始め位置に戻される。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【打歩】

打歩詰以外の詰手を禁手とする。これは先後双方に再帰的に適用される（完全打歩）。

【レトロ -m/n 手】

m手逆算してn手で詰む手順を求める。

■ 36-1 縫田光司氏作

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
					科	科			四
					馬	王			五
							香	角	六
						銀			七
									八
									九

持駒 銀 桂

上の図を

- a) 安南協力詰 3手
 - b) 対面協力詰 3手
- として解いてください。

■ 36-2 縫田光司氏作

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						糸	駒		二
						王			三
									四
								王	五
									六
									七
									八
									九

持駒 角 桂 歩

上の図を

- a) マドラシ協力詰 5手
 - b) アンチキルケ協力詰 5手
- として解いてください。

■ 36-3 神無太郎氏作

協力詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
							駒		四
									五
								王	六
									七
									八
							駒	香	九

持駒 桂4

■ 36-4 神無太郎氏作

打歩協力詰 29手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
					角	角	糸		五
						銀	香	王	六
									七
					駒	金			八
						龍	香	歩	九
								王	

持駒 香2

■ 36-5 神無太郎氏作

打歩協力詰 27手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
							銀		四
						銀			五
					角	科	歩	龍	六
					金	王		香	七
							糸	歩	八
					駒			王	九
							歩	角	歩

持駒 なし

■ 36-6 たくぼん氏作

協力詰 83手

										9	8	7	6	5	4	3	2	1
銀	金		銀					銀	一				香	馬	歩	銀	歩	歩
									二	馬	銀		ス		王	歩	銀	
									三				歩					
									四				歩		歩	歩		
									五	玉	歩		ス		ス	皇	皇	
									六		銀			科	皇		と	
									七		桂						ス	
									八								銀	
									九							桂	銀	

持駒 桂

■ 36-7 たくぼん氏作

協力詰 107手

										9	8	7	6	5	4	3	2	1
銀								銀	一					ス	皇			
馬	歩	歩	金	歩				歩	二					歩	科	科		
									三			銀	歩		皇			
									四					皇	ス	科	歩	
									五	玉			歩	歩	ス			
									六					歩	ス			
									七	馬	歩	ス			歩	銀		
									八					皇	王		ス	
									九	銀	皇				桂	香	銀	

持駒 歩

■ 36-8 縫田光司氏作

アンチキルケレトロ協力詰 -2/1手

										9	8	7	6	5	4	3	2	1
									一						科	科	と	
									二								王	
									三									
									四						銀			
									五									
									六									
									七									
									八									
									九									香

持駒 金

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第48回出題です。はじめての方は

どんな将棋だったの? - 推理将棋入門

(http://toybox.tea-nifty.com/memo/2007/05/post_53f2.html) をごらんください。

解答、感想はメールで2011年9月20日までに TETSU まで (omochabako@nifty.com) メールの題名は「推理将棋第48回解答」でお願いします。

推理将棋第48回出題 担当 DD++

今回は第36回出題から1年ぶりの94形式問題特集です。94形式とは2010年の第26回詰将棋全国大会の余興で行った「ばらばら推理将棋」のために考え出された出題形式で、9手詰を「○手目は××」という形で4つ明かして出題するもの。詳しく説明するよりも実際に第36回出題や今回の出題を見ていただくのが手っ取り早いでしょうか。

初級は私の作品。4条件中3条件を同じ条件で統一した問題です。中級は久々登場のタラパさん作、こちらは全条件で手数と条件をうまく絡めた問題。上級はこちらも久々登場の中村雅哉さん。条件付けは最終4手にまとめ、しかも全てを着手位置にまとめた驚異の作品。

当然すべて9手詰めなので、上級もいつもの中級レベル。多数の速攻解答お待ちしております。

■ 練習問題

「さっきの将棋、▲76歩△74歩▲55角△42玉▲82角成△51金右まで見てたけどどうなった？」

「9手で詰んだよ、って言えば残りの3手は分かるよね」

さて、残りの3手はどんな手だったでしょうか。

■本出題

48-1 初級 DD++ 作

歩頭戦術 9手

まずは 94 形式に慣れるための肩慣らしにどうぞ。

48-2 中級 タラパパさん作

付き合いもほどほどに 9手

先手に付き合っとうっかり指した8手目とは。

48-3 上級 中村雅哉さん作

終局前の足取り 9手

ラスト4手の着手位置だけから全てを逆算できますか？

■締め切り前ヒント (9月16日 DD++)

初級：まずは 43 歩成を頭に置きつつ5手目までを確定させてみましょう。

中級：先手の3連続角不成の途中で金を入手しましょう。

上級：15 角まで合い効かずの邪魔になる21 桂は先手が5手目に馬で処理。

48-1 初級 DD++ 作

歩頭戦術 9手

(条件)

- ・ 9手で詰んだ
- ・ 4手目は後手歩頭
- ・ 5手目は後手歩頭
- ・ 7手目は後手歩頭
- ・ 9手目は 43 歩成

48-2 中級 タラパパさん作

付き合いもほどほどに 9手

(条件)

- ・ 9手で詰んだ
- ・ 3手目は3筋に不成

- ・ 5手目は5筋に不成
- ・ 7手目は7筋に不成
- ・ 8手目は8筋に不成

48-3 上級 中村雅哉さん作

終局前の足取り 9手

(条件)

- ・ 9手で詰んだ
- ・ 6手目は 24 の着手
- ・ 7手目は 64 の着手
- ・ 8手目は 25 の着手
- ・ 9手目は 15 の着手

■練習問題解答

問題以下、▲ 92 飛△ 54 歩▲ 64 馬まで。成生の違いを除けば9手詰唯一の両王手の詰め上がりです。ちなみに開き王手の詰めは9手詰以下では存在しません。

「4-3 恐怖の9手」で出題済ではありますが、インパクトの強い手順ですので、これと全く違う条件をつけて投稿してみてもいいでしょうか？

9手中6手を全開示しているとはいえ詰め上がりが特殊なので、ひょっとすると本出題よりも練習問題のほうが苦労した人もいるかも。

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	駒		王	王	駒	科	皇	
二	飛					王		駒		
三	歩	歩		歩		歩	歩	歩	歩	
四			歩	馬	歩					
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 なし

第34回WFP作品展A7、Bコース、 第35回WFP作品展結果

担当：神無七郎

前号は前々回の神無太郎氏の個展の残りと、たくぼん氏の個展でした。問題数が多いうえ Fairy of the Forest や詰四会作品展とも重なり 解答者の皆様は大変だったと思います。まずは 解答成績から。

〔第34回WFP作品展後半解答成績〕（敬称略）

○：正解　－：無解

解答者名	A7	B1	B2	B3	計
たくぼん	－	○	○	○	3

〔第35回WFP作品展解答成績〕（敬称略）

○：正解　－：無解

解答者名	1	2	3	4	計
たくぼん	○	○	○	○	4
隅の老人B	○	○	○	○	4
変寝夢	○	○	○	－	3
雲海	○	－	－	－	1

解答期間を一月延ばしましたが、結局34A-7は正解者なし。第35回出題の方も作者自身を除けば解答者はわずか3名でした。そんな中、久々の復帰で隅の老人Bさんが第35回出題を全解され、貫録を見せてくれました。

《第34回WFP作品展結果》

■ 34A-7 神無太郎氏作（正解者なし）

協力自玉スタイルメイト 20手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
							王		七
									八
								王	九

持駒 桂4 香4

【ルール】

- ・ 協力自玉スタイルメイト
先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする
- ・ スタイルメイト
王手は掛かっているが合法手のない状態

【解答】

49 香 36 玉 39 香 37 飛 48 桂 46 玉
38 桂 同飛成 36 桂 49 龍 38 桂 36 玉
37 香 同玉 26 桂 39 龍 29 桂 26 玉
27 香 同玉 まで 20 手

（最終形）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
							王		七
									八
						龍	桂	王	九

持駒 なし

【解説】

何だかんだで約2か月の解答期間を取ったにも関わらず、正解者ゼロとなった本局。特にルールが難しいわけでもなく、完全に解答者の感覚の盲点を突いた結果と言えます。

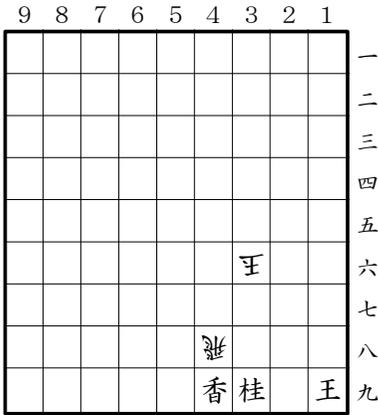
前回の解説でも書いたように、自玉スタイルメイトでは持駒の桂は「お荷物」です。もしこの形で持駒が桂だけならスタイルメイト達成は不可能ですが、本局では香があるので、これが打開の鍵を握っています。まずは、香で王手を掛けて飛を合駒で発生させ、この飛で駒を取ってもらうという方針で解図に臨みましょう。

この方針で普通に考えられる手順は、

49 香 48 飛 39 桂 36 玉 …

ですが、「49 香はどうやって消せばいいの？」という問題が残ります。

(参考図)



持駒 桂3 香3

ここから無理に進めれば、

48 香 同飛成 48 桂 46 玉 36 桂 49 龍

...

で、何とか香を消すことができますが、今度は **39 桂**が消せません。

ただ、この失敗から学べることがあります。香を **9 段目**、桂をその上に置いておけば、空き王手で香を取らせることができるということです。ですから **9 段目**にはなるべく桂でなく香を置くことにしましょう。そのために何をすれば良いか？—答えは指し将棋で言う「力を溜める」に相当する **2 手目 36 玉!** です。

ほとんど「何もしない」手なので指し難いですが、すぐに飛を合駒せずには我慢することによって、**9 段目**に香を並べる形を作れるのです。更に継続する妙手が **4 手目 37 飛!**

一見するとここは **38 飛 37 香 同飛成**として1枚香を消費した方が得に思えますが、とんでもない！ そんなことをしては後で香が足りなくなります。

詰手順を求めるプロセスではここが最大の山場ですが、解図の方向性を決めるときに、あらかじめ乗り越えるべき大きな壁があります。それは「**38 龍型**を作らねばならない」という先入観の排除です。**38 龍型**や**27 龍型**は**19 王**を閉じ込める最も効率の良い配置であり、前回の**34A-3**でも使われていましたが、この形は「ピン」を含まないので、王以外すべての駒を捨てるが必要になります。今回はすべての駒を捨てようとする手数が足りなくなる

(**24 手**掛かる)ので、消しきれない1枚の桂を盤上に残す形を想定せねばなりません。**29 桂**を**39 龍**でピンする最終形を想定できないと

16 手目 39 龍のような自玉に逆王手を掛ける

手は読めなくなってしまいます。

本作は難解ですが、手順それ自体は空き王手を繰り返すリズム感や、鋸引きっぽい受方玉の動きを含み、楽しめるものになっていると思います。しかし、幾多の試練を乗り越え、作意を楽しめた解答者は残念ながらいませんでした。

【短評】

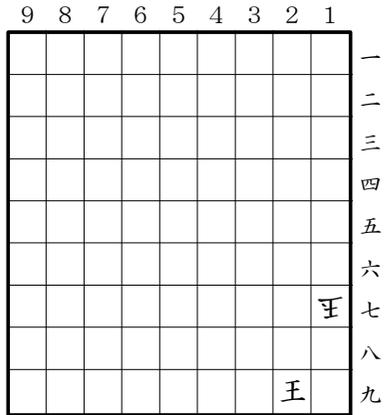
たくぼん さん (※無解)

1ヶ月増えても考える時間がそんなに増えなかった (泣) 無解です。

☆作品の難解性に加え、頼みの綱のたくぼんさんも解図時間を確保できず、解答者はゼロとなりました。解けなかった方もぜひ「鑑賞」の方をよろしくお願いします。

■ 34B-1 神無太郎氏作 (正解1名)

安北協力自玉スタイルメイト 14手



持駒 桂3 香2

【ルール】

・ 安北

味方の駒が縦に並ぶと、下の駒の利きは上の駒の利きになる

【解答】

19 香 18 飛 28 桂 13 玉 25 桂 23 玉
13 桂成 同飛成 15 桂 同龍 26 香 同龍
13 香成 同玉 まで 14 手

(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
								王	三
									四
									五
								龍	六
									七
								桂	八
								王	九

持駒 なし

【解説】

本局と次局は共に玉を大駒に変身させて、大きく、しかし最遠地点ではなく中間的な位置にピンポイントでジャンプさせる構想の作品です。

本局の限定の意味付けは、最終形を見れば分かります。最終的に 26 の位置に戻ってくるために「なるべく近く」しかも「成れる位置」でなければいけないのです。

こちらも前局同様、王以外に1枚の桂が盤上に残りますが、龍でピンされて桂自身が動けなくなるだけでなく、攻方王の利きを減らすのに役立っています。この最終形は安南・安北にかなり慣れていないと、思いつくのに時間が掛かると思います。初手に打ったが香が最後に消える構成も良いですね。

【短評】

たくぼん さん

飛合に気付けばストーリーが見えてくる。
26 香が上手い。

☆解図の一つの方法に「とりあえず指してみる」という方法があります。本局ももし「2手目は飛合」のヒント付きで出題されたとしたら正解できる方も多かったでしょう。なかなか解けない時は、決め打ちで一つの筋に賭けて、当たりを引くのを期待するのも有力な方法です。

■ 34B-2 神無太郎氏作 (正解1名)

安北協力自玉スタイルメイト 14手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
								王	七
									八
									九

持駒 桂3 香3

【解答】

29 桂 26 玉 28 香 27 角 38 桂 53 玉
45 桂 同角成 54 香 同玉 46 桂 同馬
55 香 同馬 まで 14 手

(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
								香	八
								桂	九

持駒 なし

【解説】

こちら玉を大駒に変身させてピンポイントな大ジャンプを行う構想ですが、今度は変身させる駒が飛から角になっています。

限定の意味付けは、5手目に打った 38 桂を消せる位置であること。つまり 46 桂を取れる形を想定し、そこからの逆算で決まります。玉のジャンプが近過ぎると駒が消せないのが面白いですね。

そして驚くべきはこの最終形。先程は王以外で盤上に残る攻駒は1枚だけでしたが、今度は2枚もの駒が残ります。

このように桂の動きを香が止める形は安北ならではのもの。通常感覚と真逆なので、なか

なか思いつきません。これは、馬と玉が2枚で睨みを利かす形とあいまって、本局を著しく難解にしていると思います。

【短評】

たくぼん さん

作者の事だから、34B-1と対になっているはずと考えるとどんびしゃ！53玉が幸便だし、詰上りも見事です。

この読みはさすがです。34B-1との対であることに気付くのは、解答者として鍛え上げられた嗅覚の成せる技ですね。

■ 34B-3 神無太郎氏作（正解1名）

安南協力自玉スタイルメイト20手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
			王		王				八
									九

持駒 桂2 香2

【ルール】

・ 安南

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる

【解答】

69 香 77 玉 79 香 78 角 同香 同玉
67 角 77 玉 66 桂 同玉 58 角 67 角
59 桂 75 玉 57 王 58 角生 67 桂 76 玉
68 王 67 角生 まで 20 手

(最終形)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
			王						六
				馬					七
				王					八
				香					九

持駒 なし

【解説】

初形を見ただけではとてもスタイルメイトになりそうにない形。一番分かりやすいのは受方玉を4筋に持ってきて「49 香 ○合」とする筋ですが、そんな手数の余裕はありません。この筋を実現するのに20手は短すぎます。

そこで逆転の発想。王の下に香を打つのではなく、王を香に載せることにします。初手69香は絶対手なので、その活用を図るのです。

そのための方法はいくつか考えられるのですが、4手目を飛合とする紛れは強力で、以下のように2手オーバーで詰みます。

(4手目飛合の紛れの一例)

69 香 77 玉 79 香 78 飛 同香 同玉 75
飛 87 玉 85 飛 76 玉 75 飛 同玉 67 桂
64 玉 68 香 65 角 56 桂 55 玉 57 王 44
玉 66 王 56 角 まで 22 手

これはこれで捨てがたい手順ですが、桂で香筋を遮るため、玉を5段目まで持ってくる必要があります。またこの筋で更に角合を発生させ、玉を角に変身させて一気に6筋を跳び越える手段もありますが、これも手数オーバーです。作意のように最初から角合すれば、玉を6段目で香筋に持ってくることができ、短い手数で詰むのです。

ただ、4手目飛合を諦めて、角合に的を絞れたとしても、まだ困難は続きます。本作最大の山場は11手目に訪れます。

(途中図) 11 手目 58 角の局面

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
				王					六
									七
					角	王			八
			香						九

持駒 桂

ここからすぐに「75 玉 57 玉…」とする手順に誘われますが、それでは角を消せません。

ここで 58 の角を消すために角合を発生させるのが妙手。一瞬手が途切れそうに思えますが、13 手目 59 桂で手を継続し、15 手目に待望の 57 王が実現します。

収束は桂を利用したの玉移動。19 手目 68 王のとき、「桂王香」の三段重ねが生じていることに着目してください。利きが重なるなどして通常は実現しにくい駒の並び（この場合は「王香」の並び）をもう一枚の駒を媒介することで効率よく実現する筋は、安南における新筋を産み出す大鉾脈と言えそうです。

個々の手筋から離れ手順全体を見渡すと、67 と 58 を攻方と受方の双方の角が行き来しており、趣向的な雰囲気さえ漂います。難解でありながら美しい手順を湛えた傑作です。

【短評】

たくぼん さん

香頭王の形は予想付いたので、49 香ばかり考えていたのですが 69 香を跨ぐのに四苦八苦。

69 香の上に王を持って来る事に思い当たり何とか解けました。本当にぎりぎりでした。それにしても双裸玉にもかかわらず素晴らしい手順ですねえ。

☆本当にぎりぎりの駆け込み解答でしたが、このように最後まで諦めない姿勢は素晴らしいと思います。

☆第 34 回出題の神無太郎氏の個展、いかがだったでしょうか。難解作が多く解答は集まりませんでした。解けなくても作意を並べるだけでレベルの高さを感じられるはず。最近の神無太郎さんの充実ぶりが遺憾なく発揮された作品群だったと思います。

《第 35 回 WFP 作品展結果》

■ 35-1 たくぼん氏作（正解者 4 名）

強欲協力詰 75 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	と						銀		一
	歩	入							二
と		歩	入					歩	三
	と	入					香		四
	と	と		王	角	桂			五
		垂			桂	と	香		六
	と		歩	科	歩	歩	香		七
歩			香	銀	香	香			八
	銀	金	飛	手	金	龍	香		九

持駒 なし

【ルール】

・ 強欲

駒を取る手を優先して着手を選ぶ

・ 協力詰

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める

【解答】

65 と 同玉 76 と 同玉 75 と 同玉
 74 と 同玉 63 角生 73 玉 72 角成 同玉
 71 と 同玉 81 歩成 同玉 82 歩 同金
 同と 同玉 83 歩 同玉 84 歩 同玉
 85 歩 同玉 96 金 同玉 97 歩 同玉
 88 金 同玉 89 飛 同玉 78 角 同玉
 69 銀 同玉 59 金 同全 同龍 同玉
 48 銀 68 玉 57 銀 67 玉 56 銀 同玉
 48 桂 47 玉 37 と 同玉 49 桂 27 玉
 28 香 同玉 37 銀 17 玉 26 銀 同玉
 25 金 同玉 37 桂 24 玉 36 桂 13 玉
 25 桂 22 玉 34 桂 21 玉 33 桂生 12 玉
 24 桂 11 玉 23 桂生 まで 75 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
									二
						桂	桂		三
						桂	桂		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

看寿賞受賞「奇兵隊」に敬意を表して・・・。

こちらは捻りもなにもなく平易な手順です。桂が途中で使えないので凝った手順が構築し難いです。

【解説】

本作はずばり四桂詰です。初形と詰上りを見てください。玉が都を出て雪隠へ追い込まれる「都落ち」。しかも桂は4枚とも跳ねます。これを条件面で上回ろうとすれば還元玉四桂詰くらいしか考えられません。

本作で特筆すべきは四桂詰を実現する機構のシンプルさです。62手目の局面をご覧ください。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								銀	一
									二
								歩	三
								香	四
						桂	王		五
						桂			六
									七
						桂			八
						桂			九

持駒 なし

これが4桂を跳ね出す準備完了の状態ですが、4枚の桂以外には駒3枚の追加しかありません。しかも手順は完全限定。普通詰将棋ではほとんど不可避の収束の非限定もありません。

これは素材選びの段階で成功が約束された好例であり、「強欲」条件をうまく活用した作品と言えるでしょう。

もちろん収束で桂を使い切ってしまった代償として、逆算手順に桂を使えないというデメリットもあるわけですが、この手順なら及第点でしょう（「奇兵隊」のような逆算を期待するのは酷すぎます）。16手目に「82」と強行突破する紛れが詰まないことや、46手目以下の手順に散在する紛れを読む必要はありますが、どれも読み切るのは容易でしょう。

なお、看寿賞を取った添川氏の四桂詰「奇兵隊」は全詰連ホームページ等で観賞できます。

平成22年度看寿賞受賞作

(<http://park6.wakwak.com/~k-oohasi/zentum-eren/kanju/kanpe05h22zu.html#a151>)

収束で桂を使い切ってもこんな逆算ができるとは……嘆息あるのみ。

【短評】

変寝夢 さん

煙かと思えば四桂詰。

金を持たないと97歩ができないところが面白い。5七銀に対しての変化（紛れ？）と1七香の喰わせ方で少し考えさせられました。

☆定義にもよりますが、協力詰では「変化」は存在せず手番に関係なくすべて「紛れ」です。

隅の老人B さん

序の好手は63角生、ここから段々駒が消えてゆく。さては煙？で追いかけたら、4桂詰でした。「たくちゃん、やるねえ」と感服いたし候。発想の元は「奇兵隊」？

で、これをフェアリーで実現ですね。

雲海 さん

都から雪隠への純四桂詰、と条件の部分だけを見ても凄い一品。

「奇兵隊」がきっかけですかね。

☆皆さん「奇兵隊」を連想されたようですね。これは作者も嬉しいでしょう。

■ 35-2 たくぼん氏作（正解者3名）

強欲協力詰 73手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

						糸			一
	と			王		銀		香	二
歩	科		香	駒		桂		角	三
桂	と	糸	駒		香	歩		香	四
と	糸	駒		歩				歩	五
ス	ス	ス	歩		香		歩		六
			歩	金		香			七
				雀		桂			八
と	歩	雀		飛	金				九

持駒 なし

【解答】

41 銀生 63 玉 74 と 同玉 85 と 同玉
 76 金 94 玉 85 金 93 玉 83 と 同玉
 94 金 同玉 95 歩 同玉 87 桂 同と右
 96 歩 同玉 97 歩 同玉 98 歩 同と
 同と 同玉 99 歩 89 玉 79 飛 同玉
 59 飛 同馬 44 香 13 金 69 金 同玉
 59 金 同玉 68 角 48 玉 57 角 37 玉
 46 角 26 玉 35 角 15 玉 24 角 14 玉
 13 角成 同玉 23 金 同玉 32 銀生 34 玉
 43 銀生 33 玉 42 銀生 44 玉 53 銀生 55
 玉 64 銀生 66 玉 75 銀 77 玉 86 銀 同
 玉 87 歩 同玉 98 銀 88 玉 89 銀打 99
 玉 88 銀打 まで 73 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
銀	銀								九
王	銀								九

持駒 なし

【作者のコメント】

銀婚式記念作でしたが時期がタイミング合わず… 解くのは簡単ですがまあ流れは気持ちよいか。

【解説】

詰将棋には「四桂詰」を発祥とする「一色詰」という分野があります。これは同じ種類の駒のみで詰め上げる条件作のことで、ところがこの「一色詰」、使用駒が銀の場合は2枚で詰めることができるという弱点があります。4枚使う必然性がないため「四銀詰」は「四桂詰」ほど作例は多くありません。最下段の玉を銀で詰ませるには3枚で充分ですから、本作のような詰上りこそ「銀一色詰」と呼ぶにふさわしいのでしょう。また、普通のルールで本作の詰上りが見られないのはもう一つ理由があります。この詰上りからは1手しか逆算できず、「作品」にならないからです。つまり本作は前局よりも更に「強欲」ルールの必然性が高い作品なのです。

さて、「条件」の話はこのくらいにして手順にも触れておきましょう。本作は詰上りが銀をベースとしているのに合わせるように、手順も斜めの移動を中心に組み立てられており、2回の斜追いが淀みなく流れていきます。

一箇所注意すべき点があるとすれば 23 手目 98 歩でしょうか。「98 と」でも作意と同じように進められますが、収束で行き詰ることになります。98 歩の方が自然なので「伏線」というより「紛れ」と言った方が正しいでしょうか。

【短評】

変寝夢 さん

煙でも四銀詰でもないが美しい詰め上がり。斜め追い2回より8七と消去の伏線が印象的。

隅の老人B さん

4 銀詰ならぬ 3 銀詰、これも感心。この詰上がり図は、「かしこ詰」では添川さんでもムリでしょう。44 香と金を取る手に妙味を感じました。

☆必然手の 44 香が妙手に感じるのは、一種の「残像」でしょう。開き王手は普通詰将棋に限らず、多くの作品で重要な手として扱われることが多いですからね。

■ 35-3 たくぼん氏作（正解者3名）

強欲協力詰 73手

										一
		ス	歩	と		銀				二
歩		歩	と	桂	と					三
歩	歩		と			銀	香			四
角									歩	五
				桂	歩			王		六
	香	歩	香	歩	香			香		七
	ス	角	銀	飛	香		歩	桂		八
飛	と		桂	香	銀	香	歩			九

持駒なし

【解答】

25 銀 15 玉 16 銀 24 玉 23 銀成 同玉
 44 桂 78 と 33 と 同玉 32 桂成 同玉
 42 と 同玉 41 桂成 同玉 52 と 同玉
 53 と 同玉 86 角 62 玉 72 歩成 同玉
 83 歩成 同玉 84 歩 93 玉 94 飛 同玉
 95 歩 84 玉 75 角 95 玉 86 角 同玉
 77 銀 同金 87 歩 同玉 78 と 同金
 88 歩 同玉 78 飛 同玉 89 金 69 玉
 79 金 59 玉 48 銀 同玉 59 金 57 玉
 68 金左 46 玉 57 金 37 玉 47 金 同玉
 48 金 36 玉 38 香 同金 27 銀 同玉
 38 金 18 玉 28 金 同金 19 歩 同金
 28 金 まで 73 手

(詰上り)

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
							金	王		八
							歩	香		九

持駒なし

【作者のコメント】

テトリス詰。最後にちょっと考えるくらいでいたって平易です。

【解説】

まず最初に言うておきましょう。これは煙詰ではありません。象形曲詰です。

作者の言う「テトリス」はいまさら説明するまでもないと思いますが、4つの正方形を辺に沿って繋げた「テトロミノ」を利用したゲームです。本作はその「テトロミノ」の中のひとつ、ブロック型の詰上りを実現しています。

この作は煙詰を解く場合とほとんど同じ感覚で解くことができますが、8手目で少し手が止まります。「78角をどれで取ろう？ 歩で取るなら不成も考えないと…」と迷っていても仕方がありません。ここは適当な駒で取っておいて、間違っていたら後で直せば良いのです（筆者は最初金で取ってやり直しました）。これ以外は難しい所はないですが、序で動いた銀が収束で再度働くのは巧い構成ですね。

【短評】

変寝夢 さん

雪隠詰PART2ですね。
 序盤7二歩成が絶対であることに気づかず、角生で追っかけてました。
 7八角の取り方を含め左下で余詰が出ないのにはビックリ。

☆私も「強欲」の解図中に駒を取れる手の存在をよく見落とします。「フェアリー」と「勘違い」は切っても切れない関係です。

隅の老人B さん

駒を並び終えて全駒配置、今度も煙？
 ハイ、正解。予想通りで、今度はそんなに驚きも感心もしませんでした。
 慣れると云うことは怖いな、です。

☆フェアリー最大の敵は「慣れ」ですね。作家は、解答者・鑑賞者が慣れても通用するような作品を作らねばなりません。

■ 35-4 たくぼん氏作（正解者2名）

協力白玉詰 76手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
		銀								四
歩	歩	金	金	金						五
	王	歩	歩	歩						六
					歩					七
香		飛			香	銀				八
馬	王	桂			香					九

攻方持駒なし

受方持駒なし

【解答】

88 飛 77 玉 68 飛 同玉 77 馬 69 玉
 87 馬 68 玉 86 馬 77 飛 同馬 同玉
 97 飛 87 角 同飛 68 玉 13 角 同と
 88 飛 78 角 同飛 57 玉 24 角 同と
 77 飛 67 角 同飛 58 玉 57 飛 69 玉
 59 飛 68 玉 35 角 77 玉 57 飛 68 玉
 87 飛 35 と 88 飛 78 角 同飛 57 玉
 46 角 同と 77 飛 67 角 同飛 58 玉
 57 飛 68 玉 58 飛 77 玉 57 飛 同と
 59 角 68 飛 同角 同と 57 飛 67 角
 同飛 同と 99 角 88 飛 同角 86 玉
 77 角 同と 88 飛 87 角 同飛 同と
 97 角 77 玉 88 角 同と まで 76 手

【解説】

本作の機構を一言で表すと「角によると金の呼出し」。12に居る「と金」を延々と88まで引っ張ってきて攻方王を詰めるのです。しかし、本局は普通の「呼出し」ではありません。呼び出しに使う角の入手方法が毎回変わるので

参考までに角をどこで入手するか、順序を書き出してみましょう。

角の入手箇所： 87 → 78 → 67 → 78 → 67 → 67 → 87

この不規則趣向、作者以外の正解者は隅の老人Bさんただお一人という難解作でした。その要因は不規則趣向と巧みな収束にあると思われませんが、おそらく解答者を一番悩ませたであろう局面は 33 手目です。

(途中図) 33 手目 35 角の局面

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
		銀							?	四
歩	歩	金	金	金			角			五
		歩	歩	歩						六
					歩					七
香			王		香	銀				八
	王	桂		飛	香					九

攻方持駒なし

受方持駒なし

ここで今まで通り「同と」と取っては手数オーバーになります。角がまだ生きているこの瞬間を利用して、飛を開き王手で 87 に移動し、次の角合を稼ぎやすくしてることが肝要です。

「呼出し」の主部を挟む序奏と収束もなかなかのもの。序は飛を取らせるための限定開き王手が良い感触ですし、「46 と」型になってからの長い収束では飛による「呼出し」が加わって、一層変化に富んだ手順が現われます。

初形について言えば、本来ならば9筋を使わず、全体を左に寄せて「と金」は11に置きたかったと思いますが、このような不規則趣向は非限定が生じやすく、思った通りの手順はなかなか得られません。ただ、「呼出し」回数を減らして9筋を空けたおかげで、序奏と収束はなかなか味のあるものになりました。個人的には、今回のたくぼんさんの個展で最大の収穫だったと思います。

【短評】

変寝夢 さん（※無解）

8八飛〜8六飛〜7七馬以下1サイクルの中で8七と7八で得た角でと金を二回近寄せるとい読みだが、どうしても9九の地点が埋まらない。飛と角は同時に両方持てないし。ギブアップです。

☆変寝夢さんは「78 と」型の詰上りを想定されたのでしょうか。63 手目 99 角以下「88 と」を実現するマジックのような手順をぜひご鑑賞ください。

隅の老人B さん

一瞥、12 とを連れて来るのだと思う。
当たったのは良いが、35 角打も直ぐに取っ
て一苦勞。
最後の一手まで苦勞しました、難しい。

【総評】

変寝夢 さん

今回のたくぼん氏のシリーズは解いてて心地
よかったが、作る方は大変だったろうと思
います。

隅の老人B さん

台風一過でようやく涼しくなった9月の初
旬。
久しぶりにフェアリーに挑戦しました。
たくぼん作4題をそれぞれ面白く解図。
やっぱり、「天才たくぼん」、ここにありで
した。たくぼんさん、有難う、です。

☆うーむ、「天才〇〇ぼん」というと褒めてな
いように聞こえるのは気のせいでしょうか。赤
塚不二夫の影響、悔りがたし。

たくぼんさんの個展、いかがでしたか？
1～3のように易しく楽しめる作と4のように
解答者に挑戦するような作、「たくぼん作品」
の両面の魅力が今回の個展では味わえたの
ではないでしょうか。

以上

第2回フェアリー短編 コンクール 作品募集 要項 (再掲)

投稿締切：2011年12月4日(日)
出題開始：12月20日(火) < WFP 第42号掲載 >
解答締切：2012年1月29日(日)
結果発表：2月20日(月) < WFP 第44号掲載 >
手数・ルール：6手以内のフェアリー作品。
出品数：1人2作以内。
出題方法など：作者名は伏せた上で全局一斉出
題。評価点の平均で作品の順位を決定する。
不完全作は失格(自動最下位)。
評価方法：ABCの3段階評価。A=3点、B
=2点、C=1点、誤解=3点、無解=計数
除外。
作品審査：基本的に無審査としますが、fm検討
の環境がない方の作品検討には協力します。

投稿先：(jigsawbox@gmail.com)

(ブログ

http://fourth-of-may.cocolog-nifty.com/bl_og/ にメール送信フォームを設置予定)

☆前回(2年前)との相違は、1)手数が6手
以内(前回は7手以内)、2)フェアリーな
ら全ルール可(前回は協力詰系のみ)の2点
です。その他は第1回のルールを踏襲しま
すが、不明な点については遠慮なくお問
い合わせ下さい。

小峰耕希

Fairy of the Forest#28結果発表

- 2011年05月20日：課題発表：（協力詰）
最終手＝桂
- 2011年08月15日：投稿締切
- 2011年08月20日：出題
- 2011年09月15日：解答締切
- 2011年09月20日：結果発表
- 結果発表

【今回の解答者】

（敬称略、到着順、○は全題正解者）

○神無七郎、変寝夢、○たくぼん、○隅の老人B、占魚亭、雲海

占魚亭－解けた分だけですが……。

☆最初の4題だけ解答という方が3名。客寄せ成功ということでしょうか。

■ 28-01 神無八級 協力詰 7手

											9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																王				一
																桂	飛			二
																				三
																				四
																				五
																				六
																				七
																				八
																				九

持駒 なし

42 飛生 31 玉 41 飛成 22 玉 32 龍 11 玉
23 桂 まで 7手

たくぼん－まず幕開けはオーソドックスですね。

雲海－この形で限定されているのが意外。

☆玉桂＋飛の7手詰をいくつか作った（例えば、12玉22桂／32飛）中で、一番マシだと思

った一局です。

隅の老人B－取らずに逃げるのが妙。初手に気づけば、かな？

占魚亭－隅に追い込む。

変寝夢－最近竜鋸でみたような……。

七郎－ワンクッション置いて32龍を実現するのが巧い。この手順と初手31飛成の紛れが綺麗な対比になっているおかげで、野暮なはずの初手駒取りが妙手になっています。

また、1枚の飛で不成と成を見せているので形式面でも申し分ありません。

☆32飛が32龍に変わって詰め上がるのが面白いと思いました。

■ 28-02 神無八級 協力詰 7手

											9	8	7	6	5	4	3	2	1		
																		皇	皇	王	一
																	飛				二
																					三
																					四
																					五
																					六
																					七
																					八
																					九

持駒 桂3

22 飛成 同香 23 桂 12 玉 24 桂 21 玉
13 桂 まで 7手

占魚亭－初手がポイント。桂打ちから考えました。

変寝夢－初手は少し意外。

たくぼん－桂打から考えました。やられましたね。

☆当初は23桂～12飛生という具合に、桂捨～飛生を繰り返せないかと夢想していました。到底無理そうだったので、すぐ諦めてできたのがこの作品。

七郎ー途中無仕掛。紛れが少なく易しいですが、狙いは明確です。

隅の老人Bー初手が大英断。そういう事にしておこう。

雲海ー普通の詰将棋みたいな初手ですなあ。協力詰でこれはインパクト大。

☆皆さん、誉め方に困っていらっしやるみたいですね。まあ、7手で持駒3枚だから、難しいはずはないのですが。

■ 28-03 神無八級 協力詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							駒		一
							駒		二
							王		三
									四
									五
									六
							桂	駒	七
							香		八
									九

持駒 なし

35 桂 12 玉 23 香成 11 玉 12 成香 同飛生
23 桂生 まで 7手

隅の老人Bー詰上がり図で、「ウフフ」。単騎詰の見本？

たくぼんーこれはお約束の詰上り。飛筋の影にならない初手がポイント。

☆前2局が「桂打」までだったので桂を動かすのも、ということで作った物。初手が味付けのつもりでしたが、典型的すぎましたか。

占魚亭ー玉を梱包。

七郎ー初手の2択で端の方に行きたくするのはなぜでしょう？（少なくとも私はそうでした。）双方不成は…まあ協力詰では普通ですね。

変寝夢ー15桂に有利感があればいいんだけど……。

雲海ーなんといいですか。コメントしづらいです。ごめんなさい。

☆とうとう誉めようがなくなってしまったみたいですね（笑）。

■ 28-04 神無太郎 協力詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						王	王		一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂3

23 桂 12 玉 11 桂成 13 玉 12 成桂 同玉
24 桂 11 玉 23 桂 まで 9手

作者ーとりあえず、これを。

☆さて、短編最後の作品は、私（酒井）が太郎氏に直接出品を依頼した物です。作者の言葉は素っ気ないですが、内容は流石にちょっとしたもの。拙作と比べると、センスの差が歴然としていますね。

占魚亭ーやさしい還元玉。

隅の老人Bー3手目が好手、還元王ですね。

雲海ー序の5手のなんと虫のよいこと。

七郎ーたくぼんさんのブログで「双方還元玉」の話題が提示されていましたが、これも広義には「双方還元玉」ですね。一方は不動ですけど。6手掛けて玉位置をひとつだけ動かす手順は、この形を考えれば大きな収穫。

☆桂1枚の犠牲により、6手目で11玉が12玉になっている所がミソです。

たくぼんー美しい作品。これはこれで手の入れようがない。

☆こんな小品にも、作者の美意識が如実に表れています。

変寝夢ーパラの安南協力11手は解けなかったが、本作が解けてスッキリ。

☆「パラの安南協力11手」というのは6月号の「神無一族の氾濫」②のことですね。

■ 28-05 たくぼん 協力詰47手

角	銀	銀	金			銀	銀	金	角	
歩	歩	香	香	歩		香	歩	歩	龍	
						王	歩		飛	
						歩	王			
王	王	王				王	王		王	

持駒 桂2香歩4

18 飛 57 玉 59 香 58 と 同香 68 玉
 57 香 38 歩成 69 歩 67 玉 59 桂 同と
 68 歩 57 玉 17 飛 48 玉 49 歩 同と上
 18 飛 57 玉 17 飛 68 玉 18 飛 48 と
 69 歩 67 玉 17 飛 47 と 68 歩 同玉
 18 飛 58 と上 69 歩 57 玉 17 飛 48 玉
 18 飛 38 と 49 歩 47 玉 17 飛 37 と
 48 歩 38 玉 18 飛 27 玉 39 桂 まで 47 手

隅の老人Bー難しい。最終手は桂打？と決めて、この暑いのに、あっちにうろうろ、こっちにうろうろ。ああ暑い、暑い、夏場には不向きな作品。

☆受方16飛によって攻方の飛がピンされているので、攻方飛は17・18の2箇所を上下するしかありません。この飛の昇降に受方「と」の移動を交えて、局面を推移させていきます。例によって難解でしたが、その要因は？ 七郎氏の評を借ります。

七郎ー最初は詰上りが見えず、桂も全然足りないように感じました。わざわざ「37歩」をどけて「39と」を改めて37に据え直す手順が巧妙です。

また、7筋で歩が打てるようになっているのが曲者で、これが絡む紛れにさんざん悩まされました。

☆17飛を王手にするためには、それを遮る七段目の駒を移動させなければなりません。47とは59香、58とで簡単に消去できますが、問題は37歩の処理。18飛に38歩成となったと金がまた王手を遮る駒と化しているため、これを巧妙に49地点に動かし、それと入れ替わるかのように39とを37へ移動させます。これは最終手39桂を成立させるとともに玉の退路を塞ぐためです。

そこに至る過程も、49地点を空けるために49とを動かす所、さらに49歩を打つために49とを58へ持って行く所など、実に巧妙にできています。しかし……

七郎ーただ、ここまでやったのなら「17飛」は「17龍」にして、53手詰にして欲しかったと思います。そうすれば「37歩」がもう1回動き、詰上りでも働くので、もっと「37歩」の活躍を際立たせることができると思います。

☆17龍型だと34手目から手が変わります

(途中図：33手目69歩の局面、ただし18飛→18龍)

角	銀	銀	金			銀	銀	金	角	
歩	歩	香	香	歩		香	歩	歩	龍	
						王	歩		龍	
						王	歩		龍	
王	王	王	歩	王		王	王		王	

持駒 桂歩

ここから、67玉、17龍、57と、68歩、58玉、18龍、47玉、17龍、48玉、18龍、38と、49歩、47玉、17龍、37と、48歩、同玉、18龍、47玉、39桂まで53手詰となります。七郎氏のおっしゃる通り、良化しますね。画竜点睛を欠きましたか……。

■ 28-06 神無七郎 協力詰71手 (受方持駒=桂)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
				金	香				四
				銀		王	王		五
				皇	桂	王		歩	六
				飛					七
				王					八
					王		入		九

持駒 歩16

- 37 歩 27 玉 28 歩 17 玉 36 歩 27 桂
 18 歩 26 玉 27 歩 36 玉 37 歩 27 玉
 39 桂 同成銀 28 歩 18 玉 19 歩 17 玉
 36 歩 27 桂 18 歩 26 玉 27 歩 36 玉
 37 歩 27 玉 28 歩 26 玉 38 桂 同成銀
 27 歩 同玉 28 歩 18 玉 19 歩 17 玉
 36 歩 27 桂 18 歩 26 玉 27 歩 36 玉
 37 歩 27 玉 28 歩 18 玉 19 歩 17 玉
 36 歩 26 玉 27 歩 36 玉 37 歩 27 玉
 28 歩 同成銀 36 歩 26 玉 18 桂 同成銀
 27 歩 17 玉 26 歩 47 桂 18 歩 27 玉
 38 銀 36 玉 47 銀 45 玉 37 桂 まで 71 手

作者一步を桂に変えながら成銀を呼び出してはがす作。解図の方針は立て易いと思いますが、成銀を38から18に移すのには少し苦勞するかもしれません。

☆57飛の開き王手によって桂合させ、それを入手し、その桂を打ち捨てることによって成銀を移動させ、入手するという筋書きです。巧みな歩使いが印象に残ります。

隅の老人B一一瞥、49成銀に注目。取れるかな、です。
 巧みな桂合、桂打で成銀を奪取、歩の使い方もお上手。さすが、七郎さんですね。

☆攻手の大半は歩打、歩突になりますが、よくこれだけ粘れるものです。

たくぼん一やることは限られているので楽しめる……はずが結構試行錯誤を繰り返しました。収束がうまく決まっています。

☆47桂合を入手した銀で取り、最終手桂打に結びつけたのは、うまいですね。下の途中図から11手で詰みますが、収束の妙を味わってください。

(途中図：60手目18同成銀の局面)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
				金	香				四
				銀		王	王		五
				皇	桂	歩	王	歩	六
				飛					七
				王				王	八
							入	歩	九

持駒 歩

(後手持駒：桂歩13)

■ 28-07 小林看空 協力詰79手

9	8	7	6	5	4	3	2	1			
									一		
									二		
									三		
				飛	角	銀	銀	銀	銀	四	
				桂	飛	歩	歩	歩	桂	歩	五
				金	香						六
				金	香		王				七
				金	香	入			桂		八
				金	香	入				角	九

持駒 桂

- 36 桂 同玉 28 桂 46 玉 36 桂 28 歩
 同角 57 玉 39 角 48 と寄 同角 46 玉
 57 角 37 玉 48 角 28 玉 29 歩 17 玉
 39 角 26 玉 48 角 37 桂 同角 17 玉
 28 角 26 玉 17 角 36 玉 48 桂 46 玉
 28 角 37 桂 同角 57 玉 46 角 48 玉
 57 角 37 玉 48 角 27 玉 39 桂 同と
 28 歩 同玉 39 角 27 玉 28 歩 26 玉
 48 角 37 桂 同角 17 玉 26 角 28 玉
 37 角 39 玉 48 角 28 玉 39 角 27 玉
 28 歩 26 玉 48 角 37 桂 27 歩 17 玉
 39 角 28 歩 同角 27 玉 39 桂 26 玉

37 角 17 玉 28 角 26 玉 27 歩 36 玉
48 桂 まで 79 手

作者一すみません、虫のいい、二手を追加します。

七郎一最初は16玉の詰型を想定したため1枚足りずに困りました。17手目39角や24手目27玉の紛れ等にも誘われましたが、やはり一番の難関は盤の端を使わないこの詰型の想定でしょう。

☆17手目・24手目以外にも、うっかりしやすい箇所は多いです。似たような局面が続くため、角でただ追い回すだけで五里霧中ということにもなりかねません。詰上りの想定がやはり鍵になります。

七郎一また、序の桂の打ち直しは期待通り。長編の序にこういう洒落た手が入ると作品価値は大きく上がりますね。

☆作者の言葉にあるように、頭2手は後から追加されたものです。

たくぼん一最初は1筋での詰上りを想定していたが上手くいかず。次に3筋で詰上りを考えた。それでも手数短縮にはかなりの時間を費やしました。桂を早めに合駒したい気持ちを抑えるのは至難の業。

☆下に詰上り図を掲げておきます。初形の2枚のと金を消去しなければならぬ理由が判るでしょう。

(詰上り図：79手目48桂まで)

											一
											二
											三
											四
											五
											六
											七
											八
											九

持駒 なし

たくぼん一命名についてはよく分かりませんが、風船のような玉の動きと詰上りでしょうか？

隅の老人B一詰め終わって、「風船虫」って何だろう？ 検索、水生昆虫とある。水槽で飼うと、王と同じように、こんな動きをするのかな？

いずれにしても、王を捕捉するのに苦労しました。

☆作者によると、本当は「水すまし」と命名したかったが、地方によっては「あめんぼ」と混同されるおそれがあるので、「風船虫」としたとのことです。「風船虫」とは「ミズムシ」のことで、水中で紙片をつかませると浮いたり沈んだりを繰り返すので、その名があるようです。九州地方は「水すまし＝あめんぼ」のような気がします。風船虫については見たことがあるような、ないような……。どうも記憶が曖昧です。

【総評】

七郎一なかなか手応えのある回でした。特に後半。自作があるので1問分少ないのですが、結構苦労しました。

ただ、たくぼんさんが空気を読んで(?)、詰四会フェアリー作品展の締切を10月に設定して下さったので、安心してこちらに取り組むことができました。

また、八級さんの作品はなかなか良いセンスだと思いました。特に28-01。一見簡単そうなのに盲点に入ると意外と解けない…そんな詰将棋の「原点」を思い出させてくれる作品です。今後も時々で良いですから、八級さんの作品を見せてください。

☆無理矢理ほめられている感なきにしもあらずですが、とりあえず素直に受け取っておきます。

たくぼん一何と言っても担当者の客寄せが絶品でしたね。ラスト2局も好作で締めて見事なラインナップでした。

☆たくぼんさんのも入れて、ラスト3作ですね。17龍案だとなお良かったですが。

隅の老人B-4題目まではスイスイだが、残りの3題で暑い、暑い。

今年の夏はクーラー自粛で一汗、二汗、ビショビショ。

9月の中旬、ようやく全問解けたが、今度は解答書きで、また暑い。

はやく涼しくならないかなあ、です。

☆九州はクーラー自粛は必要なかったですが、相変わらずの暑さでした。近頃やっと涼しくなってきたところ。

変寝夢-後半3題どれか解きたかったが、無理でした。時に06はサイクル的な部分は見えていただけに残念です。

雲海-4月に引っ越して以降、詰将棋にまわす時間があまりないです…。解図に時間があまり取れず5以降に手が回りませんでした。面白そうなのになあ。

☆お二人とも残念でしたね。でも、ご解答に感謝します。

Fairy of the Forest #29課題発表

- 2011年09月20日：課題発表：（協力詰）
3回以上の連続合駒（移動合も可）
- 2011年10月15日：投稿締切
- 2011年10月20日：出題
- 2011年11月15日：解答締切
- 2011年11月20日：結果発表

■ 課題発表

☆下図は香打に連合を繰り返しながら、玉を横に追う趣向作ですが、2・3筋では移動合2回を含む3連合となっています。そこで、今回の課題は3連続以上の合駒とします。合駒は打合でも移動合でも構いません。

<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/mori/moriPara.html>

				香			馬	王		一
	金	銀	金				馬	王	歩	二
銀	銀		桂	香	香	香	香			三
歩	歩	桂						入	と	四
										五
								皇		六
	入	香		入	入	入		香		七
		入		香	入	入				八
桂		王			香				王	九

持駒 香3歩

13 と 同玉 15 香 同と 14 香 24 玉
29 香 28 と寄 同香 27 と 同香 26 香
同香 同と 25 歩 34 玉 39 香 38 と寄
同香 37 と寄 同香 36 香 同香 同と
35 歩 44 玉 48 香 47 と寄 同香 46 香
同香 同と 45 歩 54 玉 57 香 56 香
同香 同と 55 歩 64 玉 69 香 68 と
同香 66 香 同香 同と 65 歩 75 玉
76 歩 同と 87 桂 同と 76 歩 65 玉
66 歩 55 玉 57 香 56 桂 同香 64 玉
65 歩 73 玉 85 桂 まで 63 手

☆前回の締切をひと月延ばしたので、今回はひと月分考慮期間が短くなります。大変かも知れませんが、何とぞよろしく。

（投稿先）
→酒井博久（sakai8kyuu@hotmail.com）

推理将棋第 47 回出題

出題日 : 2011 年 8 月 4 日
 解答締切 : 2011 年 8 月 20 日

推理将棋第 47 回解説 担当 DD++

今回は「筋段条件」特集でしたが、実は3問通して「よくある詰み形」という共通点もあり、解答もいつもより早め早めに集まりました。一方で無駄手含みの問題が苦手な人には今回の中上級はキツかったかも。

47-1 初級 はてるまさん作 奇数筋だけ 7手

「たった7手で詰んじゃった」
 「奇数筋の手しかなかったね」
 「2手目の玉がおかしかったかな」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 7手で詰んだ
- ・ 奇数筋の手のみ
- ・ 2手目は玉の手

出題のことば (担当 DD++)

推理将棋最短の7手詰問題です。全手順のカンニングなしでどうぞ。

追加ヒント：

トドメは銀打ち。初手に7六歩としたくなるのは罠です。

推理将棋 47-1 解答

▲9六歩 △5二玉 ▲9七角 △5四歩
 ▲3一角成 △5一金左 ▲5三銀 まで
 7手。

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	銀	金	王		馬	科	皇	一
	飛			王			角		二
歩	歩	歩	歩	銀	歩	歩	歩	歩	三
				歩					四
									五
歩									六
	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

初形から詰みまでの最短手順は7手29通り。館長さんが運営している推理将棋の館で全て見ることができます。この問題もその中の1手順の出題ですが、そのリストから該当手順を探すというのはヤボというもの。ここはまじめに解いてみましょう。

まず、先手の手は奇数筋のみの4手しかない。自陣から2枚の駒を後手陣に運ぶのは間に合いません。すなわち、角で5手目までに後手の駒を1枚奪い、それを打って使うしかないのです。その駒の候補は金銀の2種のみ。飛角桂はこの条件下では5手目までに取ることはできません。

まず金を取る場合、「76歩、52玉、33角成、32金、同馬」もしくは「76歩、52玉、33角不成、51金左 or 右、同角不成」で取ることになります。しかし、前者にあと2手の詰みはありません。後者はあと2手の詰みはありますが、その2手は、51金左なら「32銀、42金」、51金右なら「72銀、62金」とどちらでも偶数筋の着手が入るのでこれもボツ。

一方銀を取る場合、一見「76歩、52玉、44角、54歩、71角成」と偶数筋着手が入ってしまい、銀はうまく取れないように見えます。しかし、実は裏道を通れば実はこの角の中継点を奇数筋に変えることができるのです。その裏道とは初手96歩からの3手目97角。つ

まり「96歩、52玉、97角、54歩、31角成」とこちらの銀を狙えば奇数筋着手のみで銀が取れます。あとは、練習問題のように「残りの2手は何でしょう？」を考えれば、どちらも奇数筋着手になるので見事解決。

それではみなさんの短評をどうぞ。

はてるま（作者） 「初級用問題募集の声に答えて、まさかの7手問題を出してしまいました。少しでも解答デビューしてくれる人がいればこの問題の存在意義はあるかな、と。」

■デビュー者は残念ながらいませんでしたが、初級用にありがたい問題でした。7手とはいえ気づかないとハマるといふ、よい問題をありがとうございました。

KG 「7手詰リストはほぼ頭の中に入ったかも」

■29手順といっても手順前後などの細かい差を除けば実質7系統11終局図しかありませんから、その気になればすぐですよ。

鈴木優希 「一目7六歩、一拍おいて9六歩。」

■たった一拍で7六歩の罠を抜けるとは強い。私は数分かかりました。

NAO 「奇数筋の手のみは、なるほどこの筋の2通りだけです。」

■これで1通りだったらかっこよかったんですけどね。おいしい。

はなさかしろう 「なるほど～～奇数筋の手のみなのはこの詰み形だけですか！さすがに記憶を消すことはできず、思い出してしまいましたが、発見後、11種類再確認しました（全部思い出したのはしんどかった……）」

■そう、この終局図だけなのです。それだけに手順前後の存在が悔しいところ。

斧間徳子 「条件次第で7手詰めもまだ新作ができるんですね。」

■条件のつけ方は実質無限にありますから、いつまで経っても7手詰新作は出てくるでしょうね。

渡辺 「さすがにこれは一瞬。面白い条件付けです。」

■さすがに渡辺さんクラスだと瞬殺ですか。知っていても気づきにくい順だと思っただけですね。

宮谷保可楽 「76歩→33角という手を捨てたとたんに、終わってしまった。なお、カンペは持ってません」

■実質そこがこの問題の全ての鍵ですからねえ。

タラパパ 「7手に新題は難しいと思っていましたが、この条件はさすがにベテランの上しさ。」

■いえいえ、まだまだ7手新題もできると思いますよ。1つ1つの手順に無限の条件付けがあるわけですし。

ティエムガンバ 「ウォーミングアップに最適の7手詰め。」

■はい、慣れた方はさっくりと通過していただければ。

変寝夢 「7手はこの手順が一番好き。個人的には3二玉で詰むやつはお下品に見えてしまう。」

■23歩成までの順も応用によっては面白いことになるんですけどね。

チャンプ 「『初心忘るべからず』基本は大切です。」

■全くその通りですね。

リーグ戦ファン 「条件を読み終わる前にこれかなと思った手順が解でした。なるほどね、こういう条件で7手詰を眺めたことはありませんでした。」

■ここにも一目の人が。数分かった私は担当者として自信をなくしそう。

井上順一 「初手端歩とは。中級より時間がかかった。」

■実は私も偶数筋よりも時間がかかりました。人によってかかる時間が難易度と逆転するのは推理将棋ではよくある現象です。

平井康雄 「この手順はさすがに知っていました。」

■7手詰に新手順はないですから、絶対にどこかで見た手順の条件違いですわね。

中村雅哉 『「奇数筋だけの7手なんてあったっけ?』と一瞬悩む。』

■やっぱりこの順は気づきにくいですよ。

隅の老人B 「短い3条件。これで手順が確定とは!」

■一般的に推理将棋では手数は条件数に含まないので、この問題は2条件になりますね。実質「奇数筋のみ」でほとんど縛れているのが見事です。

たくぼん 「全手順奇数筋の7手があったとは知らなかった。」

■私もこの問題を見るまで知りませんでした。

占魚亭 「7六歩から考えるところでした。」

■ということは9六歩にすぐに気づいたということですね。強い。

はらたつ 「カンニング無しです。」

■はらたつとさんならカンニングなしでも全部頭に入ってるのでは?

鈴木康夫 「脳内で全パターンをカンニングしたのか、自分で探したのか考えているうちにどちらか分からなくなってしまいました。」

■いろいろ考えているとそのあたりよく分からなくなったりしますよね。

正解：21名

井上順一さん 斧間徳子さん KGさん 鈴木優希さん 鈴木康夫さん 隅の老人Bさん 占魚亭さん たくぼんさん タラパパさん チャンプさん テイムガンバさん NAOさん 中村雅哉さん はてるまさん はなさかしろうさん はらたつとさん 平井康雄さん 変寝夢さん 宮谷保可楽さん リーグ戦ファンさん 渡辺さん

**4 7-2 中級 はてるまさん作
偶数筋だけ**

10手

「10手で詰んじゃった」
「偶数筋の手しかなかったね」
「2手目の歩がよかったかな」
「先後とも大駒を動かしたよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか?

(条件)

- ・ 10手で詰んだ
- ・ 偶数筋の手のみ
- ・ 2手目は歩の手
- ・ 先後とも大駒を動かした

出題のことば (担当 DD++)

初級と対のテーマの問題。攻めの選択肢は実はかなり狭いです。

追加ヒント：

6筋から飛が先手陣に乗り込みます。8手目の不成がポイント。

推理将棋 4 7-2 解答 担当 DD++

▲6六歩 ▽6四歩 ▲6五歩 ▽6二飛 ▲6四歩 ▽同飛 ▲6八金 ▽同飛不成 ▲4八飛 ▽6九金 まで10手。

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	玉	金	飛	角	歩		一
							歩		二
歩	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
									六
歩	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	七
	角		逃		飛				八
香	桂	銀	玉	金	銀	桂	香		九

持駒 歩

初級とは逆に偶数筋のみという条件。偶数筋ということは76歩や34歩と角道を空ける事もそれらの歩を取ってもらうこともできません。唯一角を動かすスペースを空けられる銀の移動もその後79角や31角が指せないため、角は互いに最後まで身動きが取れないこととなります。つまり互いに動かした大駒はどちらも飛ということ。そして短手数での飛車を使った攻めといえば「飛車先の歩を突いていく」か「飛車先の歩を取ってもらって飛車が乗り込む」かどちらか。しかも玉が3筋や7筋へ行けないので、4筋か6筋に限ります。

「飛車先の歩を突いていく」場合、後手の着手は62飛と64歩～67歩成、もしくは4筋で同様手順。しかし、先手が68玉としてもその後78玉も59金右も指せないため、どうしても59玉の応手が残り、詰みには至りません。

「飛車先の歩を取ってもらって飛車が乗り込む」場合、角が動かせないので後手歩を取るには地道に先手歩を伸ばすしかありません。2手目は歩なので「66歩、64歩、65歩、62飛、64歩、同飛」もしくは4筋で同様手順の出だし。ここから詰ますには後手はあと2手で取って打ってですが、69(49)飛成と金を取っては王手に対して48(68)玉と逃げるよりなく、最後の金打ちでどうにもなりません。

そこで先手がお膳立て。68(48)金と金を一段上げ、同飛"不成"と取ってもらうことで王手を事前に回避します。あとはこのまま69(49)金までの形になっているので、9手目は詰みの邪魔にならなければ何を指してもいい手。しかし条件を振り返ってみると、先手が大駒を動かしたと

いう条件をまだ満たしていません。そこで9手目に飛を動かせる場所を探すと、6筋から攻めた場合に限り48飛を指すことができ、ここでやっと左右対称が限定されます。

飛角の配置非対称を利用して余り手で左右対称非限定を殺す手法はさすがベテランといったところですね。

それではみなさんの短評をどうぞ。

はてるま (作者) 「奇数があれば偶数も、ということで出題してみました。角が使えないので、飛車を働かせるしかなく、10手でも考えやすいかと。」

■初級用投稿でしたが、奇数とセット出題したかったのと手数が2桁なことから、簡単な中級として採用させていただきました。これ単品だったら初級で出していたかも。

KG 「▲4八飛が無駄手に見えるけど9手ではこの手順は成り立たないんですね。ということはこれが偶数筋のみ条件での最短手数ですかね？」

■おっしゃる通り偶数筋最短と思います。

鈴川優希 「4筋で攻めると攻方(担当注:玉方の間違い?)が大駒の手を指せないところがポイントですね。」

■これを利用したのは本当に見事だったと思います。

NAO 「4筋でも6筋のどちらでもできそうな手順。46歩から始めると9手目の偶数筋の大駒の手がない仕掛けがありました。素晴らしい条件づけです。」

■本当に素晴らしい条件でした。

はなさかしろう 「第2、第3条件がいかにも『ここに答ありマス』という感じで頬が緩みましたが、実は第3条件できちんと対称を破っていたりして。ほのぼのとさりげなく。筋が良いというのはこういうことなのかなあ、と。」

■そういうことなのでしょうね。普通余り手は

どう限定するかとばかり考えてしまって、それを使って他の非限定を消そうなんてなかなか思いつかないものです。

斧間徳子 「48 銀の余詰めと 4 筋攻防の余詰めに同時に消す『先手は大駒を動かした』の条件が巧み。しかし『後手も大駒を動かした』と限定する理由がわかりませんでした。」

■もともと初級向けの投稿だったので、おそらく「限定には必要ないけど問題を簡単にするために入れた」ということなんだと思います。それを美しくないとするか解答者に優しいとするかは捉え方次第。

渡辺 「全体は『偶数筋のみ』で縛りの本質は『先手が大駒を動かした』。この先手の飛は無駄手だけれども、最初 4 筋で考えていたために、動かさなくてあれ？となっていました。」

■左右対称でもいける手順だとハマりがちなトラップ。

宮谷保可楽 「この条件だと、玉を 68 とかに動かしても 59 に戻される手が防げそうにない。さらに角が使えないから、飛車が走り回るだろうな。などと考えているうちに解けてしまった。2・8 筋を使わなくてもこの条件、ウマイ。」

■まさに筋書き通りの推理です。お見事。

タラパパ 「筋の限定に無駄手を使うのも、やはりベテランならではの上手さでした。」

■こういううまさってどうやったら身につくんでしょうね。

ティエムガンバ 「角が使えない以上、飛車を通し、最後は腹金と推理し正解でした。ただ、『先後とも大駒を動かした』が手順を限定するための条件となっていることに気づくまで、6 筋と 4 筋どちらでも正解では？と思いました。」

■それほど左右対称の解消条件をうまく隠しているということでしょう。

変寝夢 「8 手目より 4 八飛の限定が面白かった。」

■解図の鍵は 8 手目ですが、面白みはおっしゃる通り 9 手目にあると思います。

チャンプ 「9 手目は完全に無駄手ながらも、4 筋突破だと条件に合わないのが小気味良い。」

■何度書いたか分かりませんが、本当にうまく作られたものです。

リーグ戦ファン 「後手飛車が主役になるに違いない、ということ以外、手順を全く考えないままに、条件だけ熟読。」

◎ 4 筋と 6 筋を限定する方法→先手飛が動く条件で 68 にはいけずに▲48 飛だな

◎ 2 手目の歩だけで限定できる→5 手目に歩が取られるのかな

と、ズル解きだけで分殺できてしまいました。この問題、手順で考えたら相当悩んで楽しめたはず。一問損した気がします。自分の馬鹿。」

■私も同じようについ裏読みして損したことがありますね。本当に後悔する瞬間。

井上順一 「偶数筋では角は使えないので飛車を使う。4 筋か 6 筋かの選択。」

■その選択を限定する方法がベテランの腕でした。

平井康雄 「本来は不要なはずの 9 手目をいかにスマートに限定させるかがセンスの問題ですね。」

■ 9 手目条件の真価は、余り手を限定しただけでなく、それを用いて 4 筋と 6 筋の非限定を解消したこと。

中村雅哉 「『4 手目と 9 手目は大駒』とかで条件が減らせませんか？」

■減らせるとは思いますが、初級と 2 手目条件でそろえたのと、ヒントを増やして簡単にする狙いがあったんだろうと思います。

隅の老人 B 「『2 手目の歩』、この条件で手順前後が消えました。これが 4 手目の大きなヒント。」

■金や銀は使わないとすると飛車を振るくらい

しか2手目と手順前後する手はないですね。

たくぼん 「偶数と大駒の条件で 48 飛が自動的？に決まるのがユーモラス」

■これを自動的と思わせるのもまた作者の腕。

占魚亭 「双方の飛車がいい仕事をしていません。」

■特に先手飛は、いろいろな意味を持つ価値ある無駄手です。

はらたつと 「ファーストトライが6筋だったので良かった。」

■4筋と6筋どちらから考えるかって何かと関連性があるんでしょうかね。ちなみに私も6筋からでした。

鈴木康夫 「68 飛生 69 金の詰め上がりは最初に予想したとおりでしたが先手が5手中3手を歩に費やすのが見えず苦労しました。」

■44 同角が使えないと後手歩を手早く切る手段はこれしかないですが、確かに見落とししやすいかも。

正解：21名

井上順一さん 斧間徳子さん KGさん 鈴木優希さん 鈴木康夫さん 隅の老人Bさん 占魚亭さん たくぼんさん タラパパさん チャンプさん テイエムガンバさん NAOさん 中村雅哉さん はてるまさん はなさかしろうさん はらたつとさん 平井康雄さん 変寝夢さん 宮谷保可楽さん リーグ戦ファンさん 渡辺さん

47-3 上級 KGさん作

五段にならねば五段になれぬ 10手

「昨日のプロ対局は見物だったな」

「先手も後手も五段昇格がかかっていたからね」

「結果は10手で詰ませた後手が五段になったよね」

「俺それ見逃したんだ。どういう将棋だっ

たか教えて」

「後手が五段になったんだ」

「それはさっき聞いた」

「いや、そうじゃなくて。後手が五段目に駒を成る手を指したんだ」

「あ、そういうことか。他に覚えていることは無いか？」

「確か、不成の手が4回もあったよ」

「へえ」

「それから偶数筋への着手は5手目のみだったね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 10手で詰んだ
- ・ 後手が五段目に駒を成った
- ・ 不成が4回
- ・ 偶数筋への着手は5手目のみ

出題のことば (担当 DD++)

この問題の「真の狙い」の予想解答もお待ちしています。

追加ヒント：

5九金と打って尻金の詰め。そのためには五段目の駒成はいつどこへ何を？

推理将棋 47-3 解答 担当 DD++

▲5八玉 ▽3四歩 ▲5九金左 ▽7七角不成 ▲4八金直 ▽5九角不成 ▲1一角不成 ▽9五角成 ▲5五角不成 ▽5九金 まで10手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	王	王	銀	桂	香		
二		飛								
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		
四							歩			
五	銀			角						
六										
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八				王	金		飛			
九	香	桂	銀	王		銀	桂	香		

持駒 香

上級は五段目駒成りが主条件。当然五段目に成れる駒は飛角しかありません。一見狭くなりそうなこの条件ですが、実際はきわどい順が多く、ちゃんと解くにはかなりの考察を要します。もっとも、あてずっぽうで動かしてたまたま解を見つけるといっても解き方の1つではあるのですが。という前置きはこれくらいにして解いてみましょう。

まず飛成の場合、奇数筋条件から可能性は3筋攻めのみでしょう。つまり、「76歩、32飛、33角不成、同飛、偶数筋、37飛不成、奇数筋、35飛成、奇数筋、トドメ」。この順では歩以外に駒は取れず、また最終手歩打ちは禁手なので、駒打ちのトドメはできません。すなわち考えられるのははてるま手筋「76歩、32飛、33角不成、同飛、68金、37飛不成、58金上、35飛成、奇数筋、39龍」。しかしこれでは不成が2回しかなく、条件を満たせません。

となれば目指すべきは五段目角成。しかし奇数筋条件により玉がうまく中段へ出れないため、五段馬による直接のトドメはありません。また、馬がもう一度先手陣に戻ってトドメを刺すのも、後手の着手は「34歩～77角不成～95角成～何か～59馬」といったものになり、馬への紐駒が打てません。さらに馬の単騎詰も奇数筋着手ばかりのこの条件ではありえません。

残る可能性は馬が紐駒になる手順。トドメの候補はこの条件では59角成(2枚馬)か59金くらいしか可能性はありません。しかし2枚馬の場合、奇数筋偶数筋を考慮すると「76歩、34歩、77角、同角不成、48玉、95角成、38金、77角、59金、同角成」といった手順になりますが、これも不成の回数が全く足りていません。

ということは取る駒は金。77で取る順と59で取る順がありますが、77で取る順は「78金、34歩、58玉、77角不成、48金、95角成、77金、同馬、奇数筋、59金」やその類似手順となり、不成の回数が全く足りず。つまり最後に残った候補は角が一度寄り道する「58玉、34歩、59金左、77角不成、48金直、59角不成、奇数筋、95角成、奇数筋、59金」。不成の回数は7手目と9手目がともに不成の手であればぎりぎり足りる。この手順で指せる不成2手は11角不成～55角不成のみ。33角不成は余計な王手がかかってしまい、77角不成は後手馬の利きを遮ってしまいます。

かくして全手順が判明したわけですが、実はこの問題の真の狙いはここから先にありました。

この問題の会話は「五段になった後手が実は五段に成る手を指していた」という会話だったわけですが、解いてから先手の着手をよく見ると「五段にならなかった先手が実は五段に不成の手を指していた」というオチがついているのです。ほとんどの推理将棋では会話文は問題の条件をちりばめて面白く表現するためのものですが、その話の真のオチが問題を解いてはじめて浮かび上がるという構造は非常に珍しく、とても面白い表現手法でした。

それではみなさんの短評をどうぞ。

KG (作者) 「この手順は無駄手が2手も発生します。それを逆手にとってこのような問題にしてみました。先手の五段不成をあえて隠したのはちょっとした遊び心(笑)です」

■無駄手1回の9手でもできますが、あえて無駄手2回の10手にして組み込んだ遊び心はお見事でした。無駄手が面白みを持つ問題は、理解されれば得てして好評価につながるものです。

鈴川優希 「もう、先手は五段にならない手なんて指すから、五段になれなかったんだよ。」

■全くだよ、何やってんだか。

NAO 「てっきり3手目不成と思い込み、2手目32飛に惑わされました。飛車を使う余裕はありませんね。先手角の行き先がきっちり限定されているのが巧みです。」

■条件のクリアを急いで間違った筋にハマるのはよくある話。不成条件がなければ飛車を使っても詰むんですけどね。

はなさかしろう 「3手目33角不成、両王手がらみ...という第一感があっさり大ハズレで腰を据えました。解周辺は10手の余詰の森のような場所なのに、偶数筋"5手目"で限定なのです。さて、真の狙い予想ですが・・・『五段目の駒成2回』『偶数筋5手目のみ』の2条件でも行けそうな手順ですが、ぴったり自然限定されている先手の遊び手2手を隠す方を選ばれたのかな、と。第1条件は"は"ではなく、後手"が"で、してみると先手の不成は"ナレズ"。タイトル、会話や条件文に伏線が張ってあって、将棋版推

理小説、ですね。」

■その2条件の方が条件&手順としては面白いですが、会話文まで含めるとこっちの方が前例のない試みで面白かったでしょう？

斧間徳子 「真の狙いは『先手は55角生と五段目に成らなかったから五段になれなかった』ですね。座布団1枚。」

■座布団10枚集めるともれなく担当者が交代できます。

渡辺 「11角生から55角生の無駄手が「奇数筋」+「不成」で決定するのが面白い。一手だけ偶数が入ると奇数筋だと角が動かせるので広そうですが、不成4回成1回のために角を取るのが難しく、角打がないとすると角の位置は実は35などには来ないことが分かります(「段+筋」を4で割ると余り2)。よって5段目の角成は15/55/95のどれかで、それぞれの場合を考えると絞りやすいかと思えます。」

■角打がなくても14歩~13角~57角不成~35/75角成があつたりしますが、不成回数が足りませんね。

宮谷保可楽 「テキトーにやったら、いつの間にか解けていた(メクラ鉄砲のなせる技...)。それにしても、どうしてこんなに手順調整がうまくいくのだろうか。」

■手順調整はこの問題の場合「そもそも後手に手順前後のない手順を選んだ」のに加えて「先手の無駄手に7手目以降でしか指せない2手を選んだ」ことで48金のタイミングさえ指定すれば全て解消するようにしたのが勝因ですね。しかもそれを1つの条件にするのではなく、「奇数筋着手条件にうまいこと混ぜた」のでより自然に見えるようになっている、と。

タラパバ 「95角不成~55角成だったら、どちらが昇段できたのでしょうか？」

■1手詰を見落として先手が逆転勝ちで昇段、ではないでしょうか。

ティエムガンバ 「先手の角が動いて後手の角

の筋を通すのでは、と思いましたが、5手目を限定できず断念。後手の角が先手の角の筋を通すという考え方をしたら一気に解けました。」

■なるほど、角道を通すのに1手ずつかけるのは損だ、というところから解いたのですね。これは思いつきませんでした。

チャンプ 「感想戦の会話を少しだけ。」
先手四段「最後こちら五段に成れば五段になれましたかね？」
後手四段「それでも詰みで負けてしまうので五段にはなれなかったかと」
先手四段「そうか、七段に成れば七段になれたかもしれませんね」
後手四段「となると私も九段に成るチャンスを逃したのは問題でしたね」
先手四段「しかし、それはどちらもまた別の将棋になりますね」
後手四段「それもそうですね」
新聞記者「・・・」

■先手四段「初段~三段に降段したくない私はかなり不利なのでは……」

リーグ戦ファン 「後手だけでは不成回数が足りないので、不成を先手に協力してもらうために後手が77をまず空けてから▽95角成はまあほぼ必然。すぐ解けました。先手角不成は、詰め筋からすると無駄手処理なのですが、不成条件が詰め筋を限定する条件になり、かつ、行き所がたくさんありすぎてもう一回奇数筋で限定しなくてはならないところが面白いです。」

■中級もそうですが、無駄手の絡ませ方がうまいですね。

井上順一 「詰め上がりが想定できなかった。真の狙いとやらも全くわからず。」

■この形は比較的よく出る詰め上がりですので知っておいて損はないかと思えます。

平井康雄 「生5回にした方がスッキリするように思いましたが、それだと8手目の限定にもう一条件必要なんですね。この辺もセンスの問題ですね。」

■やるとしたら「五段目の成2回」でしょうね。もっとも、それでは真の狙いが実現しなくなってしまうが。

中村雅哉 「尻金までとはこの条件からは予想外。」

■おや、予想外とは予想外。私としてははてるま手筋と並んで本命候補だと思うのですが、中村さんは何を予想されたのやら。

隅の老人B 「不成が4回。『これは双方の角でだろう』は良かったが、初手76歩 or 96歩？これで約15日間の空回り。ヒントを見たら15秒でした、嫌になっちゃう。」

■推理将棋はきっかけをつかめると一気に解図が進みますから、そういうこともよくある話。

たくぼん 「作品も素晴らしいのですが、五段にならねば五段になれぬの言葉遊びの問題文が秀逸です。真の狙いは無解です。」

■着眼点はバッチリ、実はそのすぐ先に真の狙いがありました。

はてるま 「先手の角が11→55に限定されるのが気持ちいいですね。実質遊び手ではあるのですが、条件がうまくはまって、意外なところで味が出ました。」

■中級はてるまさん作の48飛に通じる味です。

占魚亭 「手順はすぐに分かりましたが、真の狙いが全く分かりません……。」

■すぐ解けると会話文を読み返したりしない分、逆に気づきにくいのでしょうかね。

はらたつと 「5手目偶数筋での限定がよいですね。」

■先手の角不成や真の狙いがあるので陰に隠れがちですが、ここもまたうまくできています。

鈴木康夫 「無駄手の9手目が限定されているのがすごい。」

■このド真ん中への不成をこうも自然に限定したのが作者の腕なのでしょうね。

正解：20名

井上順一さん 斧間徳子さん KGさん 鈴川優希さん 鈴木康夫さん 隅の老人Bさん 占魚亭さん たくぼんさん タラパパさん チャンプさん テイエムガンバさん NAOさん 中村雅哉さん はてるまさん はなさかしろうさん はらたつとさん 平井康雄さん 宮谷保可楽さん リーグ戦ファンさん 渡辺さん

総評

KG 「今回は上級が自作問題だったのですが次回こそはヒントなしで上級を解けたらいいな」

■次回はKGさん作は外しておくのでがんばってください。といっても次回の上級も易しめ選題ですけどね。

鈴川優希 「今回は2番と3番が、無駄手をテーマにした作品で面白かったです。どこでもいいような感じがするけど、ここしかない、という謎解きを楽しめました。」

■無駄手を楽しめるのも推理将棋の醍醐味の1つ。

はなさかしろう 「段条件はそうでもないのに筋条件は苦手感がありました...が、今回は楽しく解けました。どの問題でも単なるルートの特定ではなく手順の特徴や余詰消しに使われていたので、意味が深い分推理に役立てやすかったんじゃないかと思っています。」

■私は逆に筋条件より段条件の方が苦手なんですけど、どちらが多いんでしょうかね。

宮谷保可楽 「たしかに今月の解図はアツという間でした。感想を考えるほうが時間かかってます(それでいて駄文...)。私の解答が届くころには、もう100通ぐらい到着していることを期待して、ではまた。」

■駄文とおっしゃらず、今後も素直な感想をいただければと思います。しかし100通も来たら結果稿を書くのが大変でうれしい悲鳴。

タラパパ 「すべて嬉しい新題でしたわーい(嬉しい顔)」

■全て担当交代後におもちゃ箱用に制作投稿されたものなので、旧担当のタラパパさんにとっては嬉しい選題だったでしょう。

ティエムガンバ 「初めて締め切り前ヒントが出る前に解けました。この調子で次回も早いうちに解けますように。ところで、47-3の『真の狙い』についてですが、タイトルの『五段にならねば五段になれぬ』が、『後手が五段目になった角を活用して五段になった』と『先手が五段目に角成らずの手を指したために五段になれなかった』、という二つの意味を持つ、ということでしょうか？」

■ノーヒント全解答おめでとうございます。今後がんばってください。真の狙いはその通りですね。

変寝夢 「効率的な手より、訳の分からない手の方が面白いですね」

■今回はそれがよく感じられる作品が偶然中上級に揃いましたね。無駄手のうまさで魅せる推理将棋はほどほどにあるので、今後も何度かお目にかかるかと。

リーグ戦ファン 「今回の出題構成の趣向(筋の偶奇限定)は面白かったです。これはDD++さんの狙いでないかもしれませんが、はてるまさん出題が2問続いた後なので、『後手が五段に成る』と読んだ途端に『▽35 飛成』が浮かんだ人は私以外にも少なくないのでは？」

■その点には問題を3つ選んで最終確認している時に気がつきました。そこで遊び心で練習問題をはてるま手筋の問題に差し替えてみたり。

井上順一 「先月よりも難しかったような。」

■え、本当ですか。問題の傾向による得手不得

手はありますから、そう感じる方もいらっしゃるんでしょうかね。解答の集まる早さを見る限り、難度評価は先月より下で間違ってたようですが。

平井康雄 「推理将棋初心者には問題文だけでは考え方すらわかりませんが、最終ヒントをもたったらさすがにわかりました。」

■上級になると経験則が必要になったりしますが、それをヒントありでも解ける次点で少なくとも中級者を名乗ってよいかと思います。

隅の老人B 「残暑お見舞い申し上げます。早朝、隣家の老桜の油蟬の鳴き声で目が覚める。今日も暑くなりそうだ。さて、何をしようかな？ そうだ、涼しいうちに推理将棋の解答を書こう、です。」

■何日か涼しくなったと思ったら、また暑くなったり。秋が待ち遠しいです。

はらたつと 「夏休みを一週間もらい、やっとうっかり解けるなあと思ったら追加ヒントが。DD++のヒントのツボがハマってすぐわかりました。締め切り間に合いました。」

■ヒントはかなり正解に近づけるものを出しているつもりですが、こんな感じの内容でいいでしょうかね。ちなみにヒント投下のタイミングは基本的に毎月16日の予定ですので、ヒント投下前に解答したい方やヒント待ちをする方はご参考に。

推理将棋第47回出題全解答者： 21名

井上順一さん 斧間徳子さん KGさん 鈴川優希さん 鈴木康夫さん 隅の老人Bさん 占魚亭さん たくぼんさん タラパパさん チャンプさん テイエムガンバさん NAOさん 中村雅哉さん はてるまさん はなさかしろうさん はらたつとさん 平井康雄さん 変寝夢さん 宮谷保可楽さん リーグ戦ファンさん 渡辺さん

WFP34号掲載の拙作、実はWFP28号掲載作から生まれたもの。その創作 (推敲) 過程を紹介しよう。

【図面0】WFP28号掲載作

安南ばか自殺スタイルメイト 16手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	桂	一
								桂	二
								桂	三
								皇	四
角	飛							皇	五
飛	角							皇	六
						ス		王	七
								王	八
									九

持駒 なし

48飛 28歩 同飛 同と 45角 27歩 同角 同と
98飛 28歩 同飛 同と 54角 27歩 同角 同と
まで 16手 駒余り 歩4

b) 27と→28と

54角 27歩 同角 同と 78飛 28歩 同飛 同と
45角 27歩 同角 同と 98飛 38歩 同飛 同と
まで 16手 駒余り 歩4

【図面1】

安南ばか自殺スタイルメイト 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
		ス	ス					王	七
								王	八
飛		飛					飛		九

持駒 なし

98飛 88香 同飛 78と左 68香 69と 61香生
88と まで 8手

【図面0】 創作中に遭遇した余詰順を作品化したもの。17桂の影響で動けなくなっている単玉、2枚飛車の配置などに【図面0】の名残を見ることが出来る。配置が下段の三段に収まったこともあり、これ以上推敲することもなく氾濫33に応募したが落選。67とは自認の妥協の配置。これがなくても2手目78金合で作意同様の手順が成立するが、角合、銀合の非限定が生じる。

【図面2】

安南ばか自殺スタイルメイト 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
							飛		七
								王	八
	ス		飛	王					九

持駒 飛

98飛 88香 同飛 68角 58香 59角成 51香生
88と まで 8手

氾濫落選を期に推敲開始。王を配して2手目打合を限定する構成にした。飛車の1枚も持駒に。

【図面3】

安南ばか自殺スタイルメイト 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
									二
									三
									四
									五
									六
		飛		角					七
					飛				八
				王					九

持駒 角

99角 88香 同角 77金 66香 67金 61香生
88歩成 まで 8手

【図面8】

安南ばか自殺スタイルメイト 10手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

王										一
										二
										三
										四
									卒	五
								ス		六
									糸	七
										八
								王		九

持駒 角2

19角 37香 同角 81玉 18角 27飛 36香
37飛成 31香生 18歩生 まで 10手

26とを配して金合を飛合に。代わりに47桂は不要になった。

【図面9】

安南ばか自殺スタイルメイト 10手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

王										一
										二
										三
										四
										五
									ス	六
									糸	七
								料		八
								王		九

持駒 角2

19角 37香 同角 81玉 18角 27飛 36香
37飛生 31香生 18歩生 まで 10手

15香を38桂にして飛成を飛生に。最終3手を生で統一できた。38は香や歩だと余詰。

【図面10】 WFP34号掲載作

安南ばか自殺スタイルメイト 10手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
							王	卒		六
									糸	七
							料			八
								王		九

持駒 角2

19角 37香 同角 45玉 18角 27飛 36香
37飛生 31香生 18歩生 まで 10手

玉位置変更。初形がコンパクトになって、香生の1手のインパクトを強調できるようになった。これまでの図だと玉だけ近づけることはできなかったのだ。ついでに、26とは金に。

創作過程の図を取っておくことはあまりしないのだが、なぜか【図面10】に関しては、途中図がほとんど残っていた。多くの未完成の図を掲げるのはどうかとも思ったが、推敲はしてみるものだという事例として、多少は意味があるかな、と。

2011年12月に詰パラで開催される「第35回神無一族の氾濫」のゲスト参加が募集されている。募集要項は以下の通りです。

「第35回神無一族の氾濫」ゲスト参加募集

「第35回神無一族の氾濫」へのゲスト参加を募ります。テーマは「玉が動かないフェアリー作品」。

今回は前回とは逆に「玉が動かないフェアリー作品」を募集します。王手が掛かったとき、もっとも平凡な受けは玉が逃げることです。逆に言えば「逃げる」以外の受けを集めれば、非凡な手順を生み出される可能性があります。

「逃げる」以外にどんな受けがあるか……フェアリー的な想像力を生かした作品をお寄せください。「居食い」のように本当は動いているのに、結果的に動かない手も可とします。双玉の場合は双方の玉が不動であることとします。

作品要件 : 玉が動かないフェアリー作品

募集締切 : 2011年10月16日(日)

募集作品数 : 4 (+α)

送り先 :

神無七郎 (janacek789@ybb.ne.jp)

上記宛先へ E-mail でお送りください。

備考 : 1人何作でも投稿可。

メールの件名に「作品投稿」の語を入れてください。

採否は10月23日までに通知

今回の課題で作品を創ろうと思ったときに、過去に不動玉でどんな作品があったのだろうかに気になりちょっとだけ調べてみました。全てを調べたわけではなく、私の頭に残っている最近の作品から何作かピックアップしてみました。

やはりというか条件が厳しいのか作例はあまり多くない感じです。

それでは紹介していきます。

2006年12月 第26回神無一族の氾濫
神無太郎作 ばか詰 11手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇										一
										二
										三
										四
										五
										六
王					歩	金			香	七
	香		桂		歩	香				八
	香				王					九

持駒 角2

94角 85銀 76角 67飛 同角 58銀

19飛 29飛 同飛 39銀打 69飛 まで 11手

☆ 11手で合駒5回の快作。不動の後手玉に対して2つの方向から大駒で攻める。詰上りもまだ合駒できそうだが9段目に打てる駒はもう残っていない。

2005年10月 第5回九州G作品展

神無太郎作 協力詰 31手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
				皇		科				三
						銀	皇			四
						ス	ス	皇	と	五
				科		ス	王	皇		六
					桂	ス	香	香	王	七
						ス				八
										九

持駒 角桂

28桂 同銀成 18角 27飛 同角 同香生 16飛
26角 同飛 同香 14角 25飛 同角 同と 34飛
35角 同飛 同と右 54角 45飛 同角 同と引
56飛 46角 同飛 同と引 69角 58桂成 同角
47と引 48桂 まで 31手

☆ 全ての作を調べたわけではないので断定が出来ないが、多分不動玉ばか詰の最長記録作だと思われる。(もっと長い知ってるよという方はご一報願いたい) 不動の玉の周りの駒を飛打角合+角打飛合で移動させていき詰型を作る。66 桂配置が絶妙と発表時の解説にある。玉不動で長手数を作ろうとするとまず浮かぶのがこの筋ではないだろうか。

☆ 普通のばか詰ではなく他のルールのもので見てみよう。

1998/6 詰パラ 第9回神無一族の氾濫
神無三郎作 打歩ばか詰 173手「輪姫」

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
			進			糸			三
					と		銀		四
			雀	銀	卒	入	手	と	五
			糸	卒	糸	王	王		六
			龍	卒	入		歩		七
				銀	角	卒	金		八
			歩			桂			九

持駒 金2歩3

37歩 同と 47金 同杏上 37金 同杏 47金 同馬 同銀 同杏左 37歩 同杏 58角 47杏左 37歩 同金 47角 同金 38香 37角 同香 同金 58角 47杏 同角 同金 38香 37角 同香 同金 58角 47龍 同角 同歩成 56飛 46角 同飛 同と 引 58角 47香 同角 同金 38香 37飛 同香 同全 16飛 26角 同飛 同圭 14角 25飛 同角 同と 34飛 35角 同飛 同杏 54角 45飛 同角 同と 56飛 46角 同飛 同金 58角 47香 同角 同全 38香 37飛 同香 同圭 16飛 26角 同飛 同と 14角 25飛 同角 同杏 34飛 35角 同飛 同と 54角 45飛 同角 同金 56飛 46角 同飛 同全 58角 47香 同角 同圭 38香 37飛 同香 同と 16飛 26角 同飛 同杏 14角 25飛 同角 同と 34飛 35角 同飛 同金 54角 45飛 同角 同全 56飛 46角 同飛 同圭 58角 47香 同角 同と 38香 37飛 同香 同圭 56飛 46角 同飛 同と 58角 47香 同角 同圭 38香 37飛 同香 同

杏 16飛 26角 同飛 同と 14角 25飛 同角 同金 34飛 35角 同飛 同全 54角 45飛 同角 同と 56飛 46角 同飛 同圭 58角 47杏 同角 同圭 38香 37圭 同香 同と 28桂 同と 37歩 まで 173手

☆前掲の神無太郎作と同様の筋だが、この作の方が7年前に発表されている。単玉不動玉の最長手数に間違いのないと思われます。こんな手順が成立しているのが信じられないほど精巧な手順。間違いなく歴史上何本かの指に入る名作です。題名「輪姫」もピッタリ。

2006年6月 第25回神無一族の氾濫
神無太郎作 アンチキルケばか自殺詰 12手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
飛									一
		王							二
と									三
	糸	圭							四
									五
									六
									七
									八
王									九

持駒 なし

92飛成 82角 同と/87と 82香
83龍 同香/91香 94角 83飛
同圭/89圭 83角 12飛 94角/22角
まで 12手

☆ 最後にアンチキルケばか自殺詰より1作。復活両王手を主題にした難解作。12飛の一手が盤上この一手と呼ぶにふさわしい。復活両王手が読めないと浮かばないと 83角~94角/22角の順は浮かばないだろう。アンチキルケの特徴を最大限に表現している。

☆ 奇しくも神無太郎作が3作、神無三郎作1作と特定の作者に偏ってしまったがこれは偶然の結果です。今年末の氾濫にどんな作品が発表されるか凄く楽しみです。おっと自分も考えて投稿しないかね。

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

10月15日(木)

第36回WFP作品展

10月16日(日)

第11回詰四会フェアリー作品展

投稿募集

第2回フェアリー短編コンクール

投稿締切：2011年12月4日
手数・ルール：6手以内のフェアリー作品。
出品数：1人2作以内。

詳細はP16をご覧ください。

Fairy of the Forest#29

投稿締切：2011年10月15日
手数・ルール：協力詰・3回以上の連続合駒(移動合も可)

詳細はP22をご覧ください。

【あとがき】

先月のあとがきに載せたばか詰の解答です。
図面は先月号をご覧ください。

87飛 56玉 57飛 66玉 75角 迄 5手
*暗算では利きが見え難いかも
36飛 46金 同飛 75玉 74金 迄 5手
*飛で王手しての金合はお約束の手順。余詰順で
出てくる方が多い
67角 55玉 37角 46飛 同角 65玉 64
飛 迄 7手
*合駒が出るの是一目瞭然ですね。

独り言

投稿募集に、第2回フェアリー短コンと FOF #29 を載せていますが、短コンは6手以内とかなりの難易度です。昔、アンチキルケばか詰で短編の作品募集をしていて自分でも結構創る機会が多かったのですが最近では中長編の比率が多くなりました。

FOFの課題は「3回以上の連続合駒」ところらはいかにも中長編向けの課題。こういうのは神無一族の十八番という感じですね。今からどんな作品が集まるか楽しみです。ただ時間があまり無いので皆さんも大変ですね。(在庫がある人はいいですが・・・) もちろん在庫のない私はこれから手がける事になりますので大変そうですね。可能なものには全て参加したいと考えておりますので帳尻は合わせますけど(←いいかげんさ満開)

お忘れにならないよう言っておきますが、第11回詰四会フェアリー作品展は解答募集中です。作品は8月号に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

現在までの解答者数は 0

皆さん解けたものだけで結構ですので解答よろしくお願ひいたします。

2011年 第39号

Web Fairy Paradise

非売品
平成二十三年九月号
平成二十三年九月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市
発行兼編集人 須川卓二
発行所 Web Fairy Paradise 編集部
問合先
須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp